

平成12年度 NSネットセミナー開催

原子力安全文化の共有と向上に向けて



平成12年度NSネットセミナー開催風景

11月28日、東京都港区の虎ノ門パストラルに於いて、「原子力安全文化の共有と向上に向けて」と題して平成12年度のNSネットセミナーを開催しました。当日は、会員及びその関連企業やNSネットの関連団体から約170名の参加がありました。

セミナーは、牧野理事長の挨拶で始まり、梅津事務局長からNSネットの活動を報告した後、NSネットの評議員でもある国際基督教大学の村上陽一郎教授から「技術者の倫理と安全性」と題する講演をいただきました。

後半は、科学ジャーナリストの中村浩美氏の司会で「ピアレビューの原子燃料サイクル全体への展開について」と題するパネルディスカッションを行いました。ディスカッションには日本ヒューマンファクター研究所長 黒田勲氏や元読売新聞論説委員 中村政雄氏のほか、WANO東京センターの議長で中部電力(株)副社長の青木輝行氏、最初のピアレビューを受けた三菱原子燃料(株)副社長の武藤章氏、レビュアー経験者である関西電力(株)原子力本部チーフマネジャーの中川慎一氏、事務局から渡辺交流部長がパネラーとして参加し活発な議論を行いました。

牧野理事長挨拶

挨拶の中で牧野理事長は、安全キャラバンやピアレビューの実績を踏まえてNSネットの果たす役割を強調し、今後のNSネットの活動への一層の協力を要請しました。



牧野 昇 NSネット理事長

講演「技術者の倫理と安全性」 国際基督教大学 村上陽一郎教授



村上教授

科学技術の倫理規範の変遷について、土木学会や日本化学会、米国の"NATIONAL ACADEMY OF SCIENCES"等を例に紹介し、科学者や技術者の活動に倫理感が強く求められるようになった状況や、米国では善意の内部告発が正当化される時代になりつつある状況について述べられました。そして、科学技術が一般社会に及ぼす影響の大きさから、今後は科学者や技術者の専門家も、その集団内での相互評価だけに止まらず、集団外に説明し、理解を求め、一般からの評価を受けるとともに、一般にも理解を求める双方向の理解こそが重要であるとの認識を示されました。

パネルディスカッション 「ピアレビューの原子燃料サイクル全体への展開について」

ディスカッションでは、ピアレビューの意義について、素晴らしいことを始めたと高く評価する意見が出されましたが、一方、JCO事故を誘発するような外に見え難い課題が現状のピアレビューで摘出可能かという問題も提起されました。

これに対し、NSネットのピアレビューは、安全について最終的な責任を有する事業者の自主保安活動を促し、安全について再認識させるという点で大きな意味があるなどの議論がありました。

又、ピアレビューを実効あるものとして定着させるための方向性として、ピアレビューのメニューやレビュー項目を業態に応じて何種類か用意するといったアイデアや、良好事例を広めるための説明会の開催などの工夫をすべきとの意見が出されました。更に、将来の課題としながら、レビュー者に他産業の人を参加させるなどの意見もありました。そして最後に、経営トップがリーダーシップを持って率先してレビューを受ける姿勢を持ちつづけることが重要との認識が示されました。



中村浩美氏

黒田 勲氏

中村政雄氏



青木輝行氏

武藤 章氏

中川慎一氏

渡辺雅明

相互評価（ピアレビュー）実施状況

原子力発電所のピアレビュー開始

10月17日より20日にかけて、福島県双葉郡大熊町及び双葉町にある東京電力(株)福島第一原子力発電所において第6回のNSネット相互評価を実施しました。又、11月14日から17日には、茨城県那珂郡東海村にある日本原子力発電(株)東海第二発電所において第7回のNSネット相

互評価を実施しました。

なお取りまとめの終わった報告書については、全文をNSネットホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

第6回 東京電力(株)福島第一原子力発電所



現場調査の様子

第6回のピアレビューには、三菱重工業(株)、電源開発(株)、北海道電力(株)、日本原子力研究所、三菱原子燃料(株)及びNSネット事務局の専門家(計6名)が評価チームに参加し、組織・運営、緊急時対策、教育・訓練、運転・保守、放射線防護及び重要課題対応の分野について、原子力産業界のベストプラクティスに照らして評価を行いました。

初めての原子力発電所における相互評価ということもあり、評価項目の再検討など評価チームと事務局は入念な準備検討の上臨み、評価の結果、主な良好事例として協力企業との円滑なコミュニケーション確保に努力が払われているなど、また主な改善提案として全従業員を対象に実施している臨界安全教育を、定期的実施していくシステムの確立などが抽出されました。

第7回 日本原子力発電(株)東海第二発電所

第7回は(株)東芝、日本原燃(株)、北陸電力(株)、核燃料サイクル開発機構、原子燃料工業(株)及びNSネット事務局の専門家(計6名)からなる評価チームによって、第6回と同様の分野について評価を実施し、現在報告書を取りまとめ中です。



現場調査の様子

第3回理事会開催 日揮(株)NSネットに参加

12月1日に開催された第3回の理事会において、日揮株式会社が36番目の会員となることが決まりました。昨年12月のNSネット発足以来初めての新規会員であり、初めてのエンジニアリング会社の会員となります。NSネットホームページ

の会員施設の紹介に、日揮株式会社をご紹介していますので、是非ご覧ください。

NSネットでは今後も、新規会員の参加を積極的に進め、原子力安全の輪を広げていきます。

安全キャラバン実施状況

今回は、第7回から第9回の安全キャラバンの様子について紹介します。キャラバンの詳しい内容については、NSネットのホームページをご覧ください。

安全キャラバンで講演いただいた内容は、NSネットにて講演録とした上で会員に配布しております。

回	訪問日	訪問事業所	安全講演会講師	講演テーマ
7	10月24日	三菱マテリアル(株) 環境・エネルギー研究所	日本原子力研究所 燃料サイクル安全工学部長 藤根幸雄氏	サイクル施設の安全性(火災等の対策)について
8	10月25日	住友金属鉱山(株) エネルギー環境事業部技術センター		
9	12月7日	(株)東芝 電力・産業システム技術開発センター、 礪子エンジニアリングセンター	日本原子力発電株式会社 最高顧問 浜崎一成氏	原子力企業人としての 「原子力安全文化」の認識
			(財)電力中央研究所HFC 主任研究員 藤本順三氏	「安全」と「コミュニケーション」



意見交換会の様子(於 三菱マテリアル(株))



藤根幸雄氏(於 住友金属鉱山(株))



藤本順三氏(於 (株)東芝)



浜崎一成氏(於 (株)東芝)

事務局より

NSネットは平成11年12月9日の発足より1年が経過いたしました。この間、ピアレビューや安全キャラバンの実施等をはじめとするNSネットの運営につきましてご協力を頂き大変有難うございました。

2年目は、1年目以上に活動を充実させていくつもりですので、何卒ご協力をよろしくお願いいたします。



NSネット(ニュークリアセーフティーネットワーク)

NSネット(ニュークリアセーフティーネットワーク)は、東海村のウラン加工施設における臨界事故を教訓として、原子力の安全文化の共有化・向上を図るため設立されたネットワーク組織です。

NSnet News No.5 2000年12月発行

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル437号室
TEL: 03-5220-2666 FAX: 03-5220-2665
インターネットでNSネットの詳しい活動内容をご紹介します。
<http://www.nsnet.gr.jp>